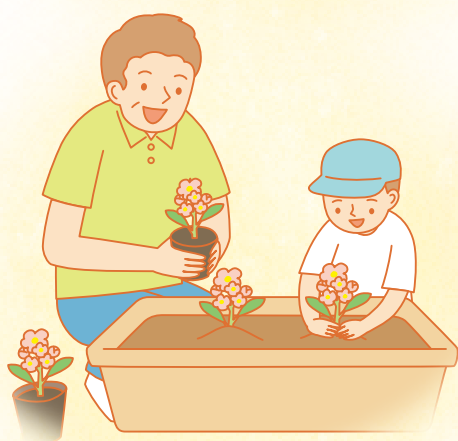


阿賀町地域福祉活動計画

令和7年度～令和11年度



阿賀町地域福祉活動計画策定委員会



ごあいさつ

近年における社会福祉の現状は、少子高齢化や人口減少の進行とともに、高齢者世帯の増加、価値観の多様化などを背景に、阿賀町においても個人を支えていた家族のつながりや地域社会とのつながりの希薄化など、地域福祉を取り巻く環境は大きく変化しました。“孤立”に陥りやすく、これらに関連して、孤独死、生活困窮、虐待など多様化する地域の福祉課題への対応は新たな局面を迎えています。



このような背景の中、地域住民の皆様が住み慣れたそれぞれの地域で、安心して自分らしく暮らし続けられるように、「みんなが しあわせに暮らしつづける町あがまち」を基本理念とし、このたび令和7年度から令和11年度までの5か年を活動推進期間とする『第1期 阿賀町地域福祉活動計画』を策定いたしました。

自助・共助・公助が一体的になる仕組みづくりを推し進め、町民や地域、各機関・団体、福祉施設、行政との連携を深め、“地域ぐるみ”で福祉課題の解決に向けて取り組んでまいります。

最後に、本計画の策定にあたり、ご尽力いただいた新潟医療福祉大学 青木茂教授を委員長とする阿賀町地域福祉活動計画策定委員会の皆様をはじめ、アンケート調査やヒアリング調査、地域座談会にご参加いただきました町民ならびに関係団体の皆様に心から感謝申し上げますとともに、これからも地域福祉の推進にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年3月吉日

社会福祉法人阿賀町社会福祉協議会
会 長 阿 部 時 也

ごあいさつ	1
目 次	2
地域福祉活動計画策定の背景と趣旨	3
阿賀町のみんなで進める地域福祉の取り組み	7
基本理念	8
みんなで取り組むプラン	
基本目標1みんながお互いさまといえるまちづくり	9
みんなで取り組むプラン	
基本目標2みんなでまもり、支えあうまちづくり	11
みんなで取り組むプラン	
基本目標3みんなでつながり、育みあうまちづくり	15
資料編	18
1. 計画づくりの体制	18
2. 計画づくりのプロセス	18
3. アンケート調査のまとめ	21
4. 地域座談会のまとめ（主な意見等）	25
5. 用語集	31
6. 策定委員会名簿	35
地域福祉活動計画策定をふり返って	36



社協公式キャラクター「アエール」

「この子に会うとみんなが勇気づけられ、元気に阿賀町で暮らせるように」という願いがこめられ、“会う＋応援”で“アエール”と名付けられました。

地域福祉活動計画策定の背景と趣旨

近年わが国では、人口減少や少子高齢化、人々の価値観や考え方、ライフスタイル等が多様になり地域社会は大きく変貌しています。こうした中、地域福祉においても、地域福祉活動の担い手不足や高齢化が進み、地域での支え合いの機能は低下しています。また、世帯人員の減少により、介護や子育て等に悩みや負担を抱えながらも、周りに頼ることができない状況も見受けられます。さらに、生活困窮やひきこもりなど、既存の制度の枠組みにはあてはまらない課題や、障がいのある子を高齢の親が自宅で支えている家庭や高齢の親とひきこもりで無職の子どもの家庭の「8050問題」、介護と子育てを同時に行う「ダブルケア」など、複合的な課題を抱える世帯も増加しています。国ではこれまで、高齢者、障がいのある人、子どもなど、対象に応じた福祉制度を整備し、支援が必要な人への取り組みを充実させてきました。

しかし、これからは前述のような社会や地域の状況を踏まえ、制度の枠組みにとらわれず一人ひとりが尊重される「地域共生社会」を実現していくことが求められます。そのためには、住民一人ひとりが地域で起こっていることを「我が事」としてとらえ主体的に関わることや、行政や福祉関係などの専門機関が連携し、より広範な視点からの支援体制を整備していくことが求められています。

このような中で、地域での支え合いによる地域福祉の充実が一層求められ、全ての住民が自ら考えて判断し地域と関わり、住み慣れた地域で安心して暮らせるような地域づくりが必要になっています。その地域福祉の推進に向け、地域住民や関係機関、各種団体等が参加・協働する行動計画（アクションプラン）として、地域福祉活動計画を策定し、地域福祉の推進を計画的に進めるとともに「地域共生社会の実現」をめざします。

地域福祉活動計画は、このような計画です

公的な機関や制度だけでは解決できない課題に対し、地域住民や関係機関・各種団体と行政などの公的な機関等が協働して、自助・共助・公助が一体となり、包括的な体制と共に、「助け合い」や「支え合い」を「お互いさま」の気持ちを育みながら、地域福祉の推進に取り組んでいく必要があります。

「地域福祉」は、お年寄りから子どもまで、障がいがある人もない人も、だれもが住み慣れた地域で自分らしく暮らしていけることをめざし、「地域」に視点をおき、人と人とのつながりを大切にして、お互いさまの気持ちで支え合う関係づくりや仕組みづくりの形をつくっていくことです。

地域福祉活動計画は、私たちが住む地域の課題を把握して、その課題に対してどのようなことができるか、どのようにしていきたいかを一緒に考え、具体的に取り組んでいくための「みんなの計画」です。

【自助】

自立・自分で自分のことを
する・サービスの購入

【共助】

地域での助け合い、ボラン
ティア活動など

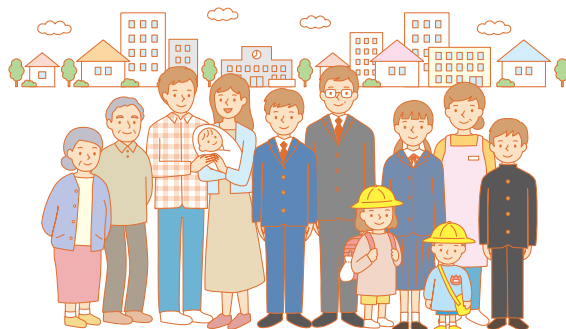
【公助】

介護保険、社会保障制度や
サービス、福祉制度など

「みんな」って誰のこと？

私たちが暮らすこの町には、さまざまな人がそれぞれの立場、所属、営みをして暮らしています。

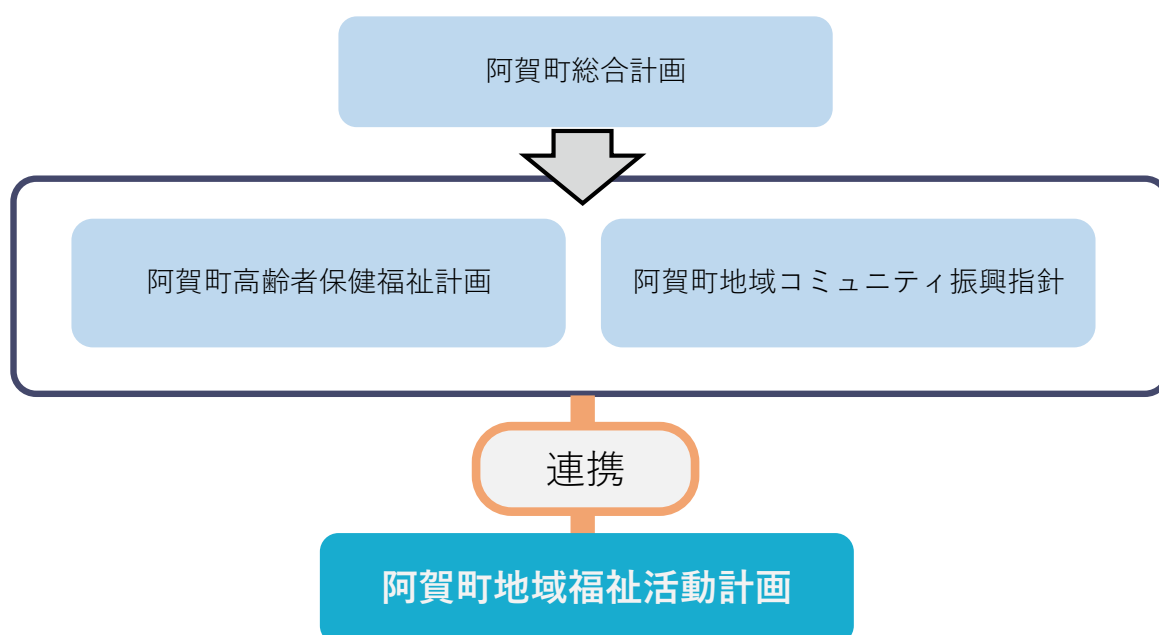
この地域福祉活動計画に取り組む「みんな」とは、地域に暮らす住民はもちろん、商店や企業・事業所、学校、福祉施設やさまざまな団体など、阿賀町に住んでいる人はもちろんのこと、町内で働いている人や活動している人などを指しています。



地域福祉活動計画の位置づけ（他計画との関連）

地域福祉活動計画は、高齢者、障がい者、児童、生活困窮、健康といった福祉分野別・対象別に対する福祉サービスだけでは十分に対応できない課題について、住民、地域福祉団体、福祉施設関係者などが行政と共に協働して取り組んでいく方向性を計画として示したものです。

住民が参画した各種行政計画、とりわけ阿賀町総合計画や阿賀町高齢者保健福祉計画、そして阿賀町地域コミュニティ振興指針などと調和を図りながら具体的な活動や取り組みを進めるための行動計画として連携していきます。



持続可能な開発目標との関わり

SDGs（エスディージーズ）は、「誰一人取り残さない」をスローガンに、貧困、環境、社会、人権、教育など、世界が抱える様々な課題の解決を目指す国際的な目標です。平成27年に国連で採択され、先進国を含む国際社会で令和12年（2030年）までの達成を目指します。SDGsの17の目標のうち、例えば、「目標1：貧困をなくそう」は生活困窮者への支援に、「目標3：すべての人に健康と福祉を」は住み慣れた地域で健康的に暮らすための地域福祉活動や社会福祉事業に深く関わります。国は平成28年に「SDGs実施指針」を定め、地方自治体の各種計画等への最大言の反映を奨励しています。そのため、本計画に基づく各種事業においてはSDGsの目標を念頭に置き、推進していきます。



計画の実施期間

この計画の推進期間は、令和7年度から令和11年度までの5か年計画とします。

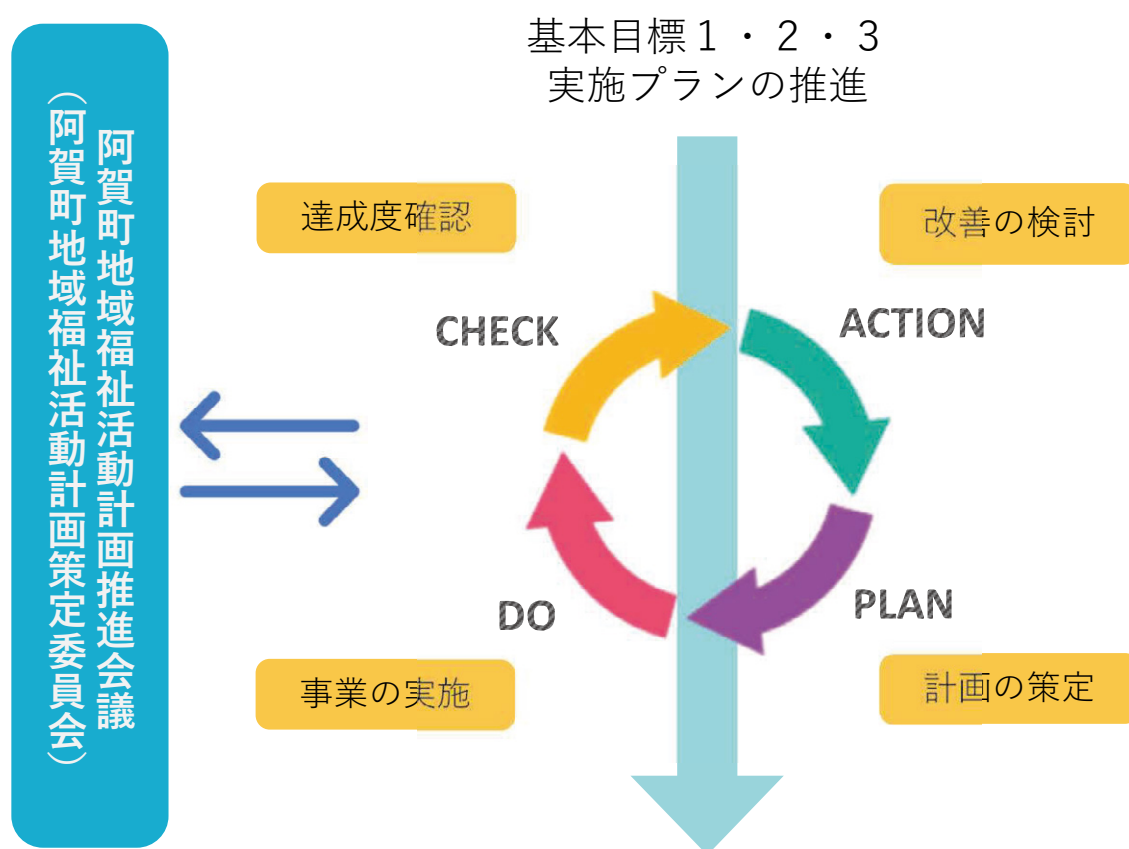
計画の進捗管理と評価のすすめ方

本計画に関わる人や団体と協働・連携して推進していきます。
計画の実効性を高め、確実に実施していくためには、適切に進行管理する体制が必要です。本計画の進行管理体制として、「阿賀町地域福祉活動計画策定委員会」を改組し「阿賀町地域福祉活動計画推進会議」を設け、計画の適切な進行管理を進めていきます。

計画推進会議では、実施プランに対する進捗状況や達成度を定期的に把握、評価を実施します。また、計画した活動以外にも、社会の状況変化に対応し、具体的な活動の推進に取り組んでいきます。

目標実現に向けた推進体制

～進行管理のイメージ図～

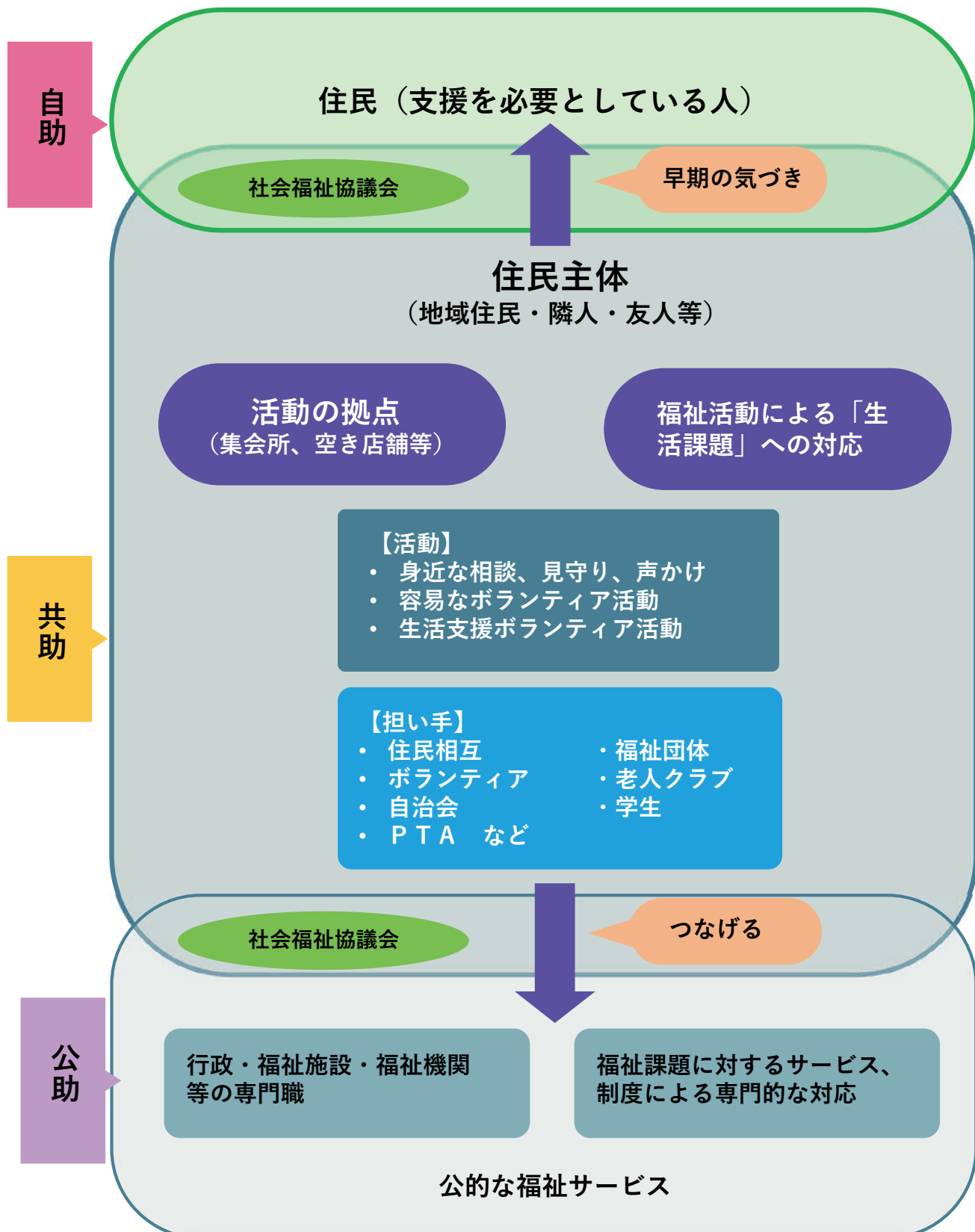


基本理念：みんながしあわせに暮らしつづける町 あがまち

阿賀町のみんなで進める地域福祉の取り組み

地域福祉活動計画は、高齢者、障がい者、児童、生活困窮、健康といった福祉分野別、対象者別に対する福祉サービスだけでは十分に対応できない課題に対して、住民、NPOや企業、福祉関係団体、福祉施設関係者、行政などが相互に連携しながら、地域における多様な生活課題の気づきや地域での共有、地域活動の担い手や拠点づくりなどが求められます。

地域住民のつながりを再構築し、支え合う体制を実現するため、住民・関係団体等と行政の協働による福祉のまちづくりをみんなで考え、実現する取り組みを進めます。



みんなが しあわせに暮らしつづける町 あがまち

県内で最も高い高齢化率で、少子化や人口減少の進行も著しいなか、家庭や地域社会での孤立化や人間関係の希薄化が進み、これまであった「お互いさま」が低下してきています。

住み慣れた町でいつまでも安心して、自分らしく暮らしたいという願いは、住民のだれもが持っている願いではないでしょうか。

この願いを実現するためには、住民同士が支え合い、関係機関や団体、ボランティアなどの皆さんと共に協力し合う地域づくりが大切になってきます。

私たちは、「みんながしあわせに暮らしつづける町 あがまち」を基本理念とし、人と人との支え合いのなかで、誰も取り残さずに自分らしく暮らせる地域づくりをめざして、福祉のまちづくりを進めていきます。



計画の体系

基本目標	みんなが取組む目標
<p>ささえアエール</p>  <p>1. みんながお互いさまといえるまちづくり</p>	<p>【支え合う】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. “お互いさま”で支え合うしくみづくり 2. 見守り合える関係づくり
<p>まもリアエール</p>  <p>2. みんなでまもり、支えあうまちづくり</p>	<p>【支え合う・護る】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. “まもる”情報発信の充実 2. 相談体制の充実 3. みんなで障がいの理解 4. 防災を学び合うことを通じて支え合いづくり
<p>つながリアエール</p>  <p>3. みんなでつながり、育みあうまちづくり</p>	<p>【つながる・学び合う・育む・その他】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 世代を超えた学び合う場づくり 2. 取り残さず、地域ぐるみで子どもを育む仕組みづくり 3. 高齢者も障がい者もだれもが活躍できる機会づくり

ささえアエール

基本目標 1

みんながお互いさまといえるまちづくり

多様化する社会や暮らしのなかでは、困りごとや生活のしずらさも多様化しています。プライバシーの配慮から困りごとを抱える人に周囲が気づきにくい状況もあります。そんな中では、だれでも「支える側」「支えられる側」になります。いつでも「助けて」と言える関係をつくり、お互いさまの助け合いのところで支え合う地域づくりを推進します。

プラン① お互いさまで支え合うしくみづくり

町民の私たちができること

- お互いさまの意識をもち、ゴミ出し等負担にならない程度の助け合い活動を行ってみましょう。
- 困っている、手伝ってほしいときに相談できる人を増やしましょう。
- 暮らしの困りごと（除雪・ゴミ出し・買い物・移動）について、助け合えるときは、声をかけてみましょう。
- ボランティア活動に興味・関心を持ってみましょう。

社会福祉協議会等ができること

- 地域の支え合い活動の推進
 - ・ ボランティア講座を開催し、支え合い活動に関心を持つきっかけづくりを行います。
 - ・ 生活支援養成講座を開催し、住民同士の支え合い活動の普及に努めます。
 - ・ 移動を支援するしくみとして、社会福祉法人等の空き車両の地域への活用について検討します。
- 生活支援体制整備事業・はつらつシニアガイドブックの普及・充実
 - ・ 生活支援コーディネーターとして、はつらつシニアガイドブックの普及を図り、生活の困りごとと地域資源をつなげます。
 - ・ 地域、民間団体、行政と課題を共有し協議できる場をつくります。
- 助成事業による地域活動団体の支援
 - ・ 赤い羽根共同募金や社協会費を活用して地域活動団体を支援します。

行政ができること

- 柔軟な支援の推進
 - ・ 複雑化・多様化する地域の課題に対し住民相互の支え合いを基盤に多様かつ柔軟な支援を推進します。
 - ・ 住民主体による地域運営組織や中間支援組織（NPO等）の設立を支援します。
 - ・ 地域づくり支援事業により人的・財政的に支援します。
 - ・ ニーズに応じた公共交通の実現や地域で支える体系を創出します。（福祉バス・患者輸送車・デマンドバス等）
 - ・ 集落支援員制度による住民活動のサポートを継続します。
 - ・ コミュニティ助成による除雪機械整備により共同の取り組みを支援します。

プラン② 見守りあえる関係づくり

町民の私たちができること

- 地域の作業やお祭りなどの行事に積極的に参加しましょう。
- 世代を超えて地域の集いに参加しましょう。
- 地域や近所の人と会ったら挨拶をしましょう。
- 近所の人の様子に変化がないか気かけあいましょう。
- 近所で気になる人がいたら民生委員や社会福祉協議会に相談をしましょう。

社会福祉協議会等ができること

- 誰でも気軽に交流できる場づくりの推進
 - ・あらゆる世代におけるサロンの立ち上げ支援を継続します。
- 誰も孤立しない、見守るしくみづくりの構築
 - ・地域で見守り合う意識を啓発できる講座を開催します。
 - ・子どもから高齢者まで誰もが地域内で孤立することがないように、地域、民間団体、行政と協働し見守り体制の仕組みをつくります。

行政ができること

- 見守り体制の維持
 - ・関係機関と連携による見守り体制の維持。
- 地域コミュニティ向上の支援
 - ・住民組織・団体等の連携のもとに住民主体の地域活動の取り組みを支援します。

認知症や障がいなどで判断能力が低下しても、その人らしい暮らしができるように自己実現・自己決定を支援する仕組みづくりを推進します。また、いつ起こるかわからない災害では、地域の備えを共に考えるなかで、災害時や有事にそのまましくみを生かせる地域づくりをめざします。

プラン① “まもる”情報発信の充実

町民の私たちができること

- 情報を自ら積極的に得るようにしましょう。
- 「広報あが」や「社協だより」、回覧などを読み、町や関係機関・団体からの情報をよく見るようにしましょう。
- ホームページやSNSなども活用し情報を得やすい方法で得るようにしましょう。
- 地域で行う集いや講座に参加して情報を得ましょう。

社会福祉協議会等ができること

- わかりやすい情報の発信
 - ・ 社協だより「よつば」やホームページ、フェイスブック等のSNSを活用して定期的に発信し、事業や制度のわかりやすい周知に努めます。
- 地域に出向く専門職による情報の発信
 - ・ ふれあいいきいきサロン等で、住民向けに専門職等が講話する機会をつくれます。
 - ・ 高校生によるスマホ講座を開催して、情報を得られるよう支援します。

行政ができること

- 正しい情報を家庭に届ける工夫
災害時や有事の情報発信には、平時から取り組むことが重要であるため、生活に必要な情報発信は、正しくスピーディーに得られるように取り組みます。
 - ・ 各種の情報を「広報誌」「テレビ電話」「阿賀町アプリ“しらせあい”」等によりお知らせします。
 - ・ メディアの活用、SNSにより情報を発信します。

プラン② 相談体制の充実

町民の私たちができること

- 困りごとがあったら、相談をしましょう。
- 相談先が分からない人がいたら教えてあげましょう。
- 気軽に相談できる仲間や同じ悩みなどを抱えた仲間づくりをしましょう。

社会福祉協議会等ができること

- 地域へ出向き地域の皆さまと顔の見える関係の構築
 - ・ふれあいいきいきサロン等、住民が集まる機会を活用し、関係機関と連携し情報の発信に努めます。
 - ・社会福祉協議会や福祉事業所が行う介護保険や障がい福祉等の事業を通じて利用者のみならず、その家族などが抱える困りごとにも目を向けて支えていきます。

行政ができること

- 相談体制の継続
様々な相談に的確に対応できるよう、関係機関・団体と連携し、専門的かつ総合的な支援を行います。
 - ・子ども家庭総合支援拠点事業と子育て世代包括支援センターの一体的な運営により妊娠期から子育て期の相談支援を強化します。
 - ・障がいのある方に対する相談支援事業の継続。
 - ・地域包括支援センターによる高齢者や介護者への相談支援。
 - ・成年後見センターの運営による権利擁護の推進。



■ 取組みのイメージ

プラン③ みんなで障がいの理解

町民の私たちができること

- 認知症、障がいの特性を理解しましょう。
- 障がいを抱えている方の立場になって物事を考えてみましょう。

社会福祉協議会等ができること

- 認知症や障がいの理解を深めるための普及啓発
 - ・福祉学習や福祉フェスティバル等のイベントを活用し、福祉団体・事業所と連携し、活動の周知・啓発を行い障がいの理解に努めます。
- 福祉団体の活動支援
 - ・赤い羽根共同募金助成を活用して地域活動を支援します。

行政ができること

- 認知症や障がいの理解を深めるための普及啓発
 - ・障がいに対する理解を深め「心のバリアフリー」の推進を図ります。
 - ・障がいのある方の理解促進研修や啓発事業の実施。
 - ・身体障害者福祉協会、手をつなぐ育成会など当事者団体の活動を支援。
 - ・認知症の理解を深めるための事業（認知症カフェ）の継続。

プラン④ 防災を学び合うことを通じて支えあいづくり

町民の私たちができること

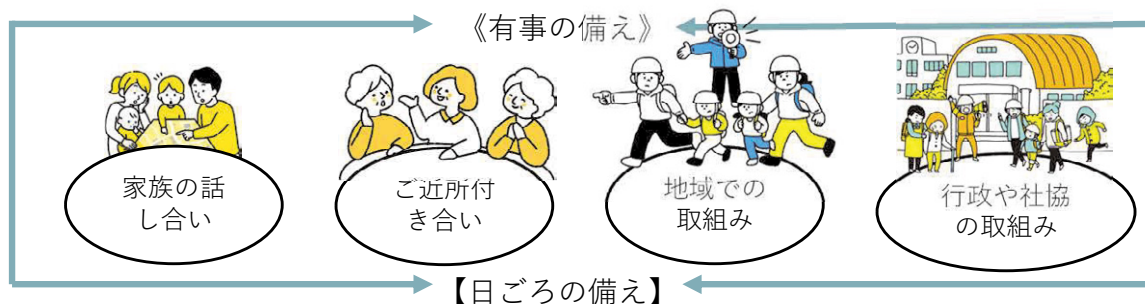
- 災害が起きていなくても、地域で避難場所、避難方法を確認し合いましょう。
- 地域で避難訓練をするなど防災活動に取り組みましょう。
- 災害について家庭や地域で様々な想定（日中・夜間、災害別）をしながら話し合いをしましょう。

社会福祉協議会等ができること

- 災害に備える体制づくりの推進
 - ・ 関係機関と連携し、災害ボランティアセンター設置訓練を実施することで、災害に備えた体制づくりを進めます。
 - ・ ふれあいいきいきサロン等、あらゆる団体をつなぐことで多世代に向けた防災教育を推進します。

行政ができること

- 地域における防災体制の強化
安全を確保し被害を最小限に抑えるため、自主防災組織の育成や要支援者等の避難支援体制の整備に向けて、地域ぐるみの支え合いを支援し、自助・共助の意識を高めます。
 - ・ 危機管理体制・防災体制の充実（地域防災計画の見直し等）を図ります。
 - ・ 自主防災組織の育成と強化を進めます。
 - ・ 緊急時に迅速に対応できるよう、除雪体制の機動性を強化します。
 - ・ 消防、救急体制の充実、医療機関との連携を図ります。



■ 取組みのイメージ

地域の支え合いの意識が高まる

だれもが自分らしく暮らせるように、あらゆる世代が福祉にふれて、学び、考え、つながり、だれも取り残さない地域づくりをめざします。

プラン① 世代を超えた学び合う場づくり

町民の私たちができること

- 自分の地域に関心を持ちましょう。
- 親子でともに体験できる学び合いの場に参加しましょう。
- 地域や学校の活動に参加しましょう。
- 地域の話し合いの場に参加しましょう。

社会福祉協議会等ができること

- あらゆる世代が集い、「つながる福祉教育」の推進
 - ・ ボランティア体験や福祉体験を通じて、活動の意義を学ぶ機会をつくり日常の地域の活動につながる福祉教育を推進します。
 - ・ 地域や学校、家庭等と連携し、多世代が参加できるようにします。
 - ・ 多世代で地域の課題を共有し「あったらいいな」を創出できる地域座談会「しゃべり場」を開催します。

行政ができること

- 生涯学習意識の向上とだれもが学べる環境整備を推進します。
 - ・ 生涯学習への取り組みを推進します。
 - ・ 町公民館事業による各種講習会開催、施設開放、文化展等を継続します。
 - ・ 各種スポーツイベントの開催や体育館を地域に開放します。
 - ・ 地域資源を活用（歴史、文化、史跡、自然、ヒト）した学びを推進します。
 - ・ ファンクラブ事業などを通じて多様な人との交流を推進します。
 - ・ 公共施設の適切な維持・管理に努め、学びの場、交流の場を提供します。
- 地域と連携した郷土学習の推進
 - ・ 「阿賀学」を中心とした児童生徒の郷土学習を地域と連携して行います。

プラン② 取り残さず、地域ぐるみで子どもを育む仕組みづくり

町民の私たちができること

- 近所や地域に気になる様子の人がいたら、気軽に民生委員児童委員、社会福祉協議会等に相談をしましょう。
- 子どもたちの通学時など、お互いにあいさつを交わし見守り合いましょう。
- 子どもの頃から「楽しかった・嬉しかった」という体験ができるようにしていきましょう。
- 地域の定期的な集い（子ども食堂・ラジオ体操等）に参加し、見守り合いましょう。

社会福祉協議会等ができること

- 子育て世代の集いの場づくり
 - ・多世代が関わるわんぱく☆キッズサロン（子育てサロン）を推進するため、「キッズサロンサポーター」として地域のさまざまな人材を活用して実施します。
 - ・子ども食堂実施団体やフードバンクと連携し、地域のボランティアをつなぎ、子育て世代の集う場づくりを支援します。
- 子育てサポートの充実
 - ・花いっぱい運動等の世代間交流を通じて、子育てへの関心を深め、地域全体で子育てを支援する意識づくりを醸成します。
 - ・地域支え合い事業「みんなでささエール」での子育てサポートボランティアの養成を行政や関係機関と連携し実施します。

行政ができること

- 学校と地域の連携・協働の推進
 - ・放課後児童クラブの運営により児童の健全な育成を推進します。
- 地域と共にある学校づくり
 - ・コミュニティスクールによる学校と地域間の課題及び目標を共有します。
- 地域全体での子育て支援の推進
 - ・誰もがあたり前に子育て支援サービスを受けられるよう、地域全体で子どもや子育て世代を応援する機運を醸成するための取り組みを関係機関と共に推進します。

プラン③ 高齢者も障がい者も誰もが活躍できる機会づくり

町民の私たちができること

- 当事者の思いを語ることができる場をつくり参加しましょう。
- 地域の活動で趣味や特技を活かしてみましょう。
- 地域のふれあいいきいきサロンなどに積極的に声をかけあって参加しましょう。

社会福祉協議会等ができること

- 老人クラブ等の関係団体との連携
 - ・ 町老人クラブ連合会事務局として、会員の生きがいづくり、健康づくり活動を支援し、地域支え合い事業「みんなでささエール」の協力会員として活動の推進を図ります。
 - ・ 花いっぱい運動等の世代間交流を継続します。
- 当事者の想いを伝える場づくり
 - ・ 福祉教育のなかで障がいや認知症の当事者の想いを伝え、だれにとっても暮らしやすいユニバーサルデザインや心のバリアフリーについて考える場をつくります。
- 当事者団体との連携
 - ・ 障がいを抱える当事者の会や、親の会（手をつなぐ育成会）の交流の場づくりの支援を継続すると共に、取り組みの見える化・魅力化を図ります。

行政ができること

- 関係団体への活動支援
 - ・ 社会福祉協議会、シルバー人材センター、老人クラブ等への活動支援。
- 地域活動支援センターの実施
 - ・ 障がいのある方の地域交流や創作活動の場を提供。
- 障がい者就労支援事業所との連携
 - ・ 農福連携の取り組みや地域活動への参加の機会づくり。

1. 計画づくりの体制

(1) 策定委員会

計画の策定にあたっては、地域住民の代表や福祉関係者、ボランティア団体、商工関係者など地域に関わる17名の方で構成された委員会を設置しました。

(2) ワーキングチーム会議（作業部会）

策定委員から選出した作業部会がヒアリングやアンケートからの課題抽出や重点目標など作成をすすめ、策定委員会をサポートをしながら策定を進めました

2. 計画づくりのプロセス

(1) ニーズ調査

① アンケート調査

- ①-1 高校生年代を対象に阿賀町の印象や良いところ、課題だと感じているところなどを把握しました。
- ①-2 保護者を対象に阿賀町の印象や良いところ、課題だと感じているところ、課題解決のためにできることや、どんな町になったらいいかななどの想いを把握しました。

② 地域座談会

ふだんの暮らしのなかで抱えている生活の課題や望む暮らしなどを知るため、地域座談会を開催しました。

地区名	参加数	日程等
津川地区	28名	令和5年11月14日：やまぶきの里
鹿瀬地区	16名	令和5年11月21日：阿賀町公民館
上川地区	29名	令和5年11月28日：上川会館
三川地区	22名	令和5年12月 4日：三川教育文化センター



③関係団体ヒアリング

地域・高齢・障がいの福祉関係のほか、商工関係等の地域で活動をされている関係機関・団体の方々から直接意見をうかがい、各団体からみた福祉課題や解決策について分析し計画に反映しました。

<協力団体 敬称略 ※名称は令和5年12月時点のものです>

地域	高齢者	障がい	その他
3・4区地域の茶の間	栄寿会	地域活動支援センター たんぽぽ	阿賀町民生委員児童委員協議会
奥田ハッピー会	三郷交友会	ほっとサポートとこなみ	フードバンクあが
八ツ田	延寿会	手をつなぐ育成会	阿賀町赤十字奉仕団
平堀あじさい会	きりんクラブ	身体障害者福祉協会	津川商工会
京ノ瀬のびのびサロン	明寿会	ひまわりの家	鹿瀬上川商工会
大牧鐘馗サロン	八幡会		三川商工会
野村さくら会	水沢高砂会		阿賀町消防団
天満サロン	のんフレイルかのせ		阿賀町保護司会
麦生野	よってけ亭		
当麻高砂会サロン	九島こぶし会		
船渡サロン	両郷ことぶき会		
向鹿瀬みんなの家	小出長寿会		
深戸体操クラブ	豊川豊寿会		
わけしょの会	日野川長寿会		
栃堀サロン・せせらぎ	広谷いやさか会		
高清水サロン・雪割草	宝寿会		
石畑サロン	五十沢・末広会		
丸淵サロン	谷沢・谷沢会		
原ふれあいサロン	五十島・白竜会		
下綱木サロン	長谷・長栄会		
新谷ふれあいサロン	釣浜・松浜会		
白崎サロン	石間・宝珠会		
岩谷・将軍ベチャサロン			
中ノ沢・にぎやかサロン			
谷沢・いきいきサロン			
小花地いきいきサロン			
石戸・手をつなぐサロン			
熊渡・正鬼長寿サロン			
長谷・長谷福祉会			
釣浜・にこにこサロン			
石間・宝珠会サロン			



老人クラブのヒアリング
於：リーダー研修会

(2) ワーキングチーム（作業部会）会議

開催回数	日にち	主な検討内容
第1回	令和6年3月25日	<ul style="list-style-type: none"> ● ワーキングチームの役割について ● ワーキングチームの進め方 ● アンケート・ヒアリングの分析結果
第2回	令和6年5月28日	<ul style="list-style-type: none"> ● 活動計画体系図の検討について ● 基本理念・基本目標案の作成について ● 策定委員会の進め方について
第3回	令和6年10月25日	<ul style="list-style-type: none"> ● 重点目標の修正について ● 計画草案の検討について



(3) 策定委員会

開催回数	日にち	主な検討内容
第1回	令和5年10月31日	<ul style="list-style-type: none"> ● 「地域福祉活動計画」とは ● ヒアリング/アンケート項目について ● 作業部会の設置について
第2回	令和6年 7月31日	<ul style="list-style-type: none"> ● ヒアリング等の結果について ● 計画体系案について ● 「住民等ができること」について
第3回	令和7年 1月28日	<ul style="list-style-type: none"> ● 計画草案の検討 ● 計画の承認

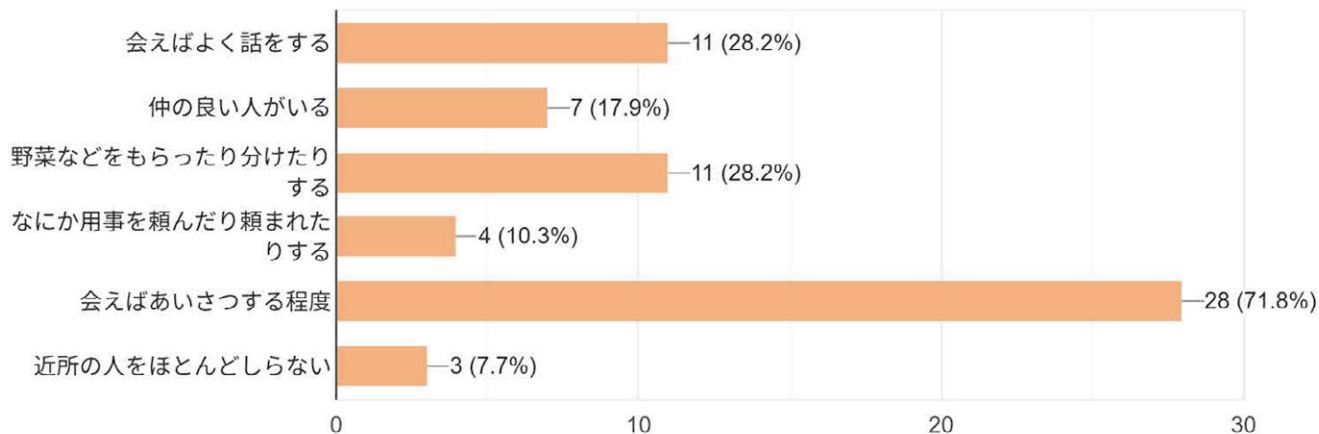


3. アンケート調査のまとめ

(1) 高校生から見た阿賀町はこんな町

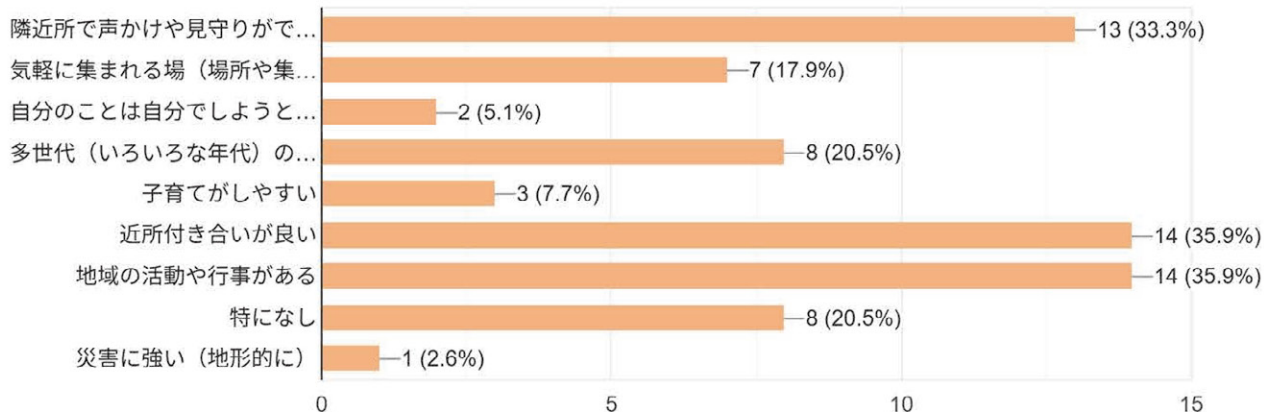
あなたはふだん、どのように近所の人と接していますか（複数回答可）

39 件の回答



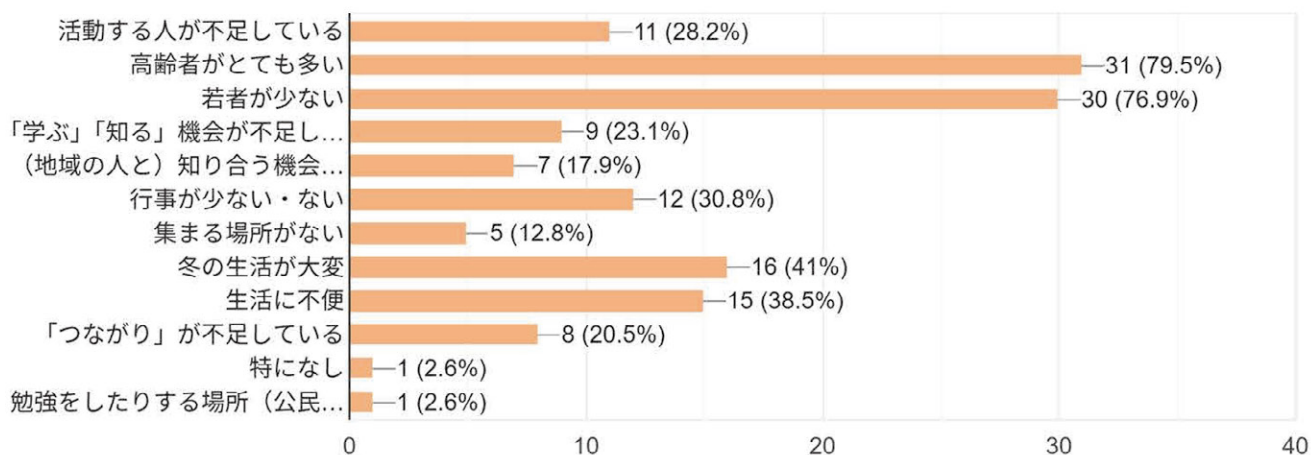
自分の住んでいる「区（集落）」の良いと感じてい...と感じているところがありますか（複数回答可）

39 件の回答



「自分の住んでいる区（集落）」の課題だと感じて...と感じているところがありますか（複数回答可）

39 件の回答



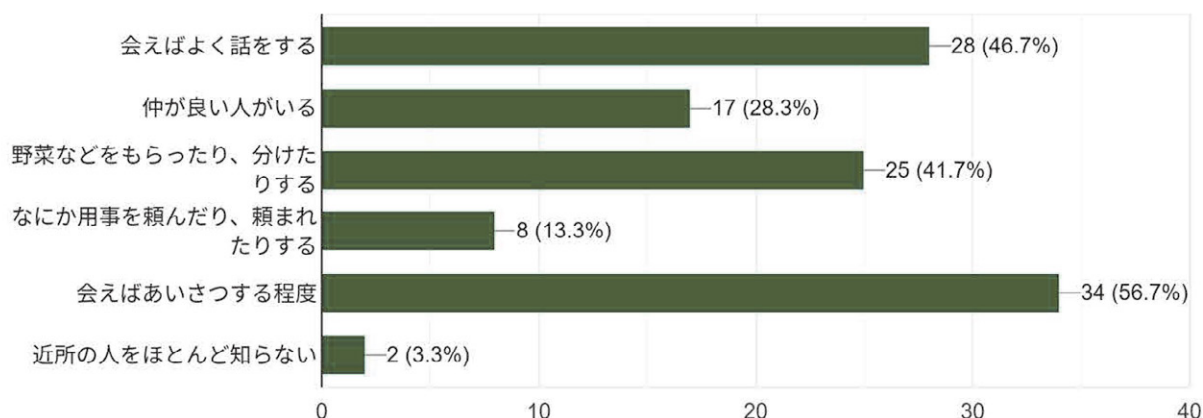
高校生アンケートの自由記載より

- みんなで集まって勉強する場所が欲しい
- 土地がたくさんあるのでいろんな建物を建てることができる
- 高齢化や少子化が進んでも鹿瀬が大好き
- 学生が減ってきて楽しかった行事やイベントが減ってきているのが悲しい
- 働く場所が限られていて、若い人が町外へ出ていく。昔と違い高校も町外がほとんどで、阿賀町はどうなるのか心配です
- 楽しむ場所がない
- 公共交通機関が少ないと思うことが多くなってきました

(2) 保護者から見た阿賀町はこんな町

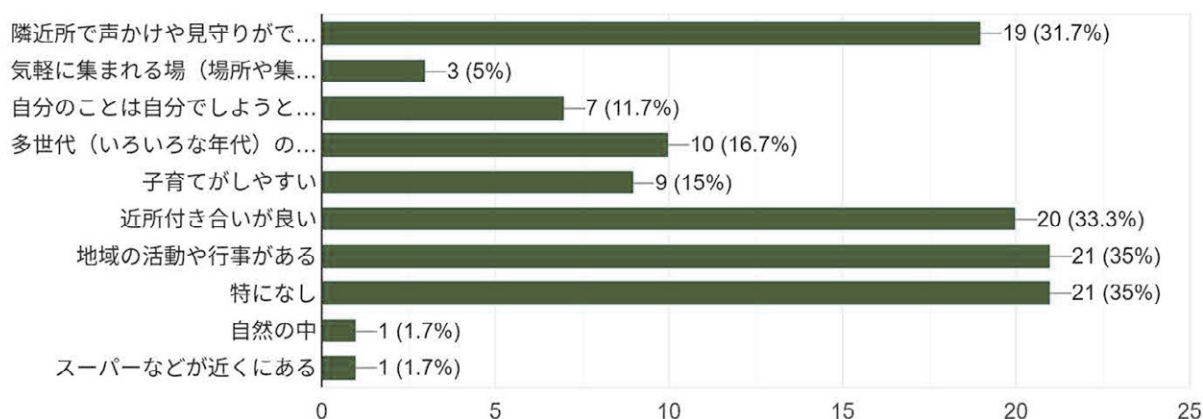
3. あなたはふだん、どのように近所の人と接していますか（複数回答可）

60 件の回答



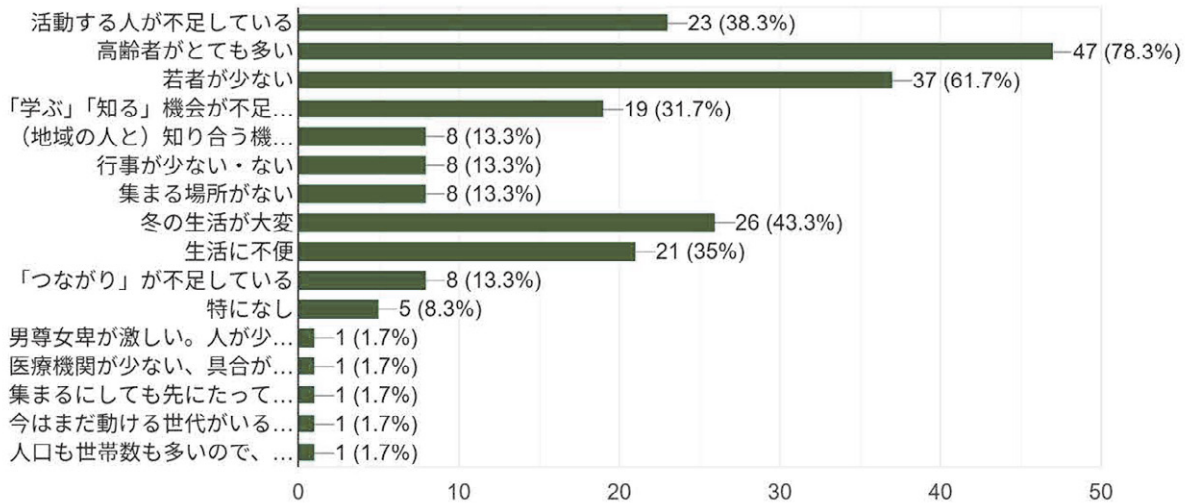
4. 「自分の住んでいる区（集落）」の良いと感じ...と感じているところがありますか（複数回答可）

60 件の回答



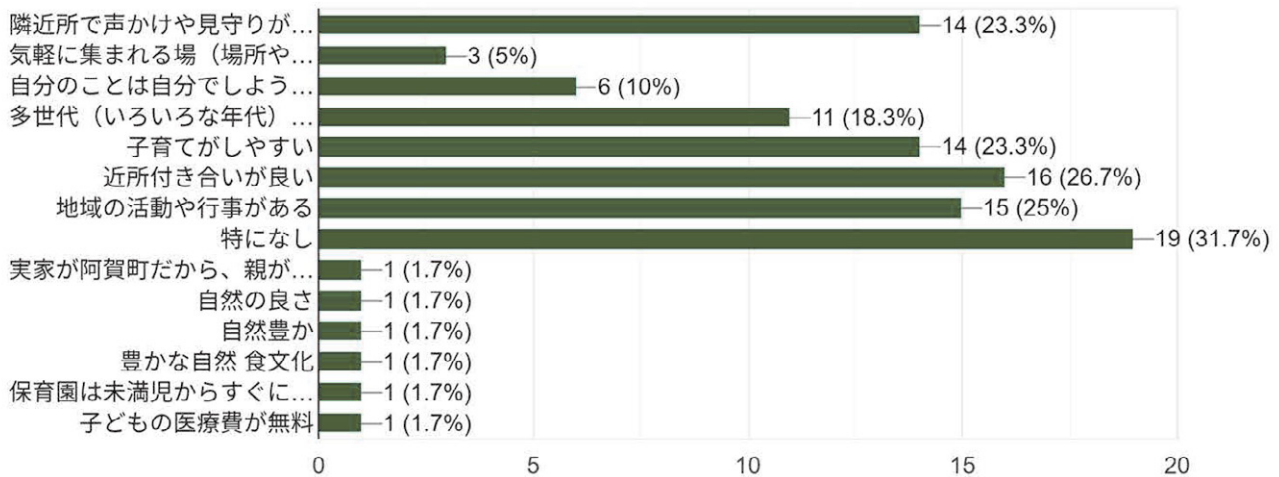
5. 「自分の住んでいる区（集落）」の課題だと感...と感じているところがありますか（複数回答可）

60 件の回答



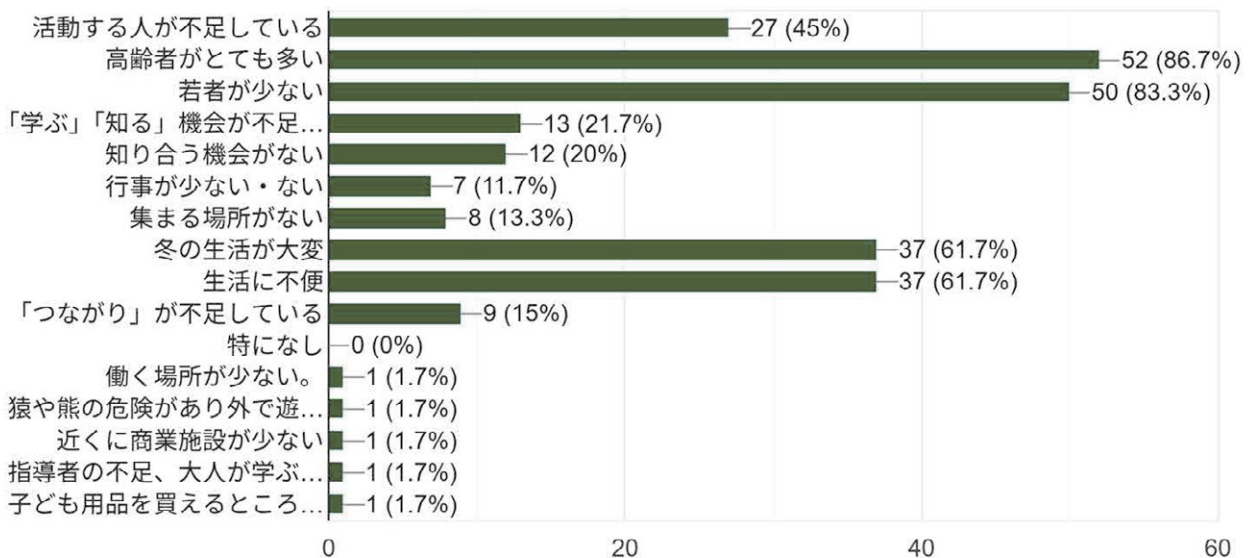
6. 「阿賀町全体」について、良いと感じていると...と感じているところがありますか（複数回答可）

60 件の回答



7. 「阿賀町全体」の課題だと感じているところ、...と感じているところがありますか（複数回答可）

60 件の回答



《自分たちにできること》

- ・ 共働きでなかなか地区の活動に参加できないことが多いですが、青年会のようなものを作り、地域と関わっていただけたいと思います
- ・ 身近なところで集まるきっかけをつくるために子育て世代で集ってみる。夏休みのラジオ体操に地域を巻き込む
- ・ 集まる機会があっても参加しないと意味がないのでいろんな世代を対象にいろんなイベントがあると小さなつながりが増えるんじゃないかなと思いました
- ・ 行事には積極的に参加する
- ・ 自分から近所の人に声をかけて関係性を作る
- ・ 人と意識して集まれるようにし、頼れる場所や人を増やすのは大切だと思う
- ・ 何か考えたい人が集まって話し合ってみたい。シニア青年団みたいなのをやってみたい

《どんな町になったらいいと思いますか》

- ・ 支え合っていくためには、お互いのことを考えてよい距離感を保つことが大事だと思います。また自分の家族に若い世代がいれば他人を頼る前に家族に頼れる関係を作る事も大事だと思います。自分の事ばかり考えてもダメだし、自分の事を考えられないのもダメですね。地区の行事の中に、みんなが楽しめるものが1つでもあると関わりが増えていくのではと思います。
- ・ 高収入の働く場所 ・ 町内に就職先があること
- ・ 冬や年をとって車を手放しても不便なく暮らせる町
- ・ もっと働く場所を増やし、過疎化を少なくした方が良い
- ・ とにかく物価高で苦しい。クーポンとか積極的にして欲しい
- ・ 人が少なくなくても地域が成り立って住んでいて幸せを感じられるような地域
- ・ 働く場所がたくさんあることで、若者が戻ってくるような町になって欲しい
- ・ 移住者がもっと増えたら良いと思うし、そういう人たちとの交流の場があると良いと思います。
- ・ 週末に町外に行かないと習い事がない。小学生の放課後児童クラブで英語やスポーツ教室など
- ・ 除雪、買い物、病院に苦労せず平穩に最後まで暮らせたらそれでよい
- ・ お互いを思いやり、見守り、助け合える関係のある町
- ・ 健康に暮らせる町。有機栽培や自然栽培、自然食品、オーガニック食品や身体に害のない日用品等が手に入る。オーガニック食品を使った給食
- ・ 除雪が大変なので道路に消雪パイプを設置してほしいです
- ・ 町外へアクセスしやすい環境
- ・ 交通機関の充実、工業誘致
- ・ 子どもたちが帰ってきたいと思える町 ・ 若者が住める町
- ・ 子どもが楽しく過ごせる
- ・ 活気のある暮らしやすい町になるために企業の誘致をして欲しい
- ・ みんなが住みやすい町になってほしい
- ・ 子どもが暮らしやすい町。教育環境や医療機関を充実してほしい
- ・ 子どもたちの楽しみを増やす（運動・映画鑑賞・親と一緒に遊べる等）
- ・ 津川地区に大規模商業施設を誘致し来町者を増やし賑やかな町
- ・ 小児科を充実させて欲しい。五泉、阿賀野市まで行くには大変
- ・ 自然たくさんあるので、今どきの流行やこれから流行りそうな自然を活用した事業を行い雇用を増やす、過疎の学校のモデルになって欲しい
- ・ 子ども用品をレンタルしたりリユースできる仕組みがあったらいい。保育園の園児服や体操着もいくらか着ないのにいい値段する
- ・ 第二第三の青春が送れる町。いくつになってもその世代で楽しめて、支え合いづくりができるようになること

《その他》

- ・ 津川に気軽に時間を潰せる場所があると助かります
- ・ B&Gにローイングエルゴメーターを置いて住民が使用できるようにしてほしい。レガッタ大会は9月にありますがそれとは別にローイングエルゴメーター大会を開催してほしい
- ・ 空き家の活用
- ・ 生活するうえで車が必須であり、それ以外の移動手段が少なく免許返納後の老後の不安があるので選択肢を増やして欲しい

4. 地域座談会のまとめ（主な意見等）

津川地区

キーワード	ふだんの関わり	困りごと・課題	あったらいいな
区の作業	<ul style="list-style-type: none"> ● ゴミ当番を1週間した ● 村作業に参加（草刈り、水路など） ● 地区の集会所の清掃活動 ● 祭の神行事 ● 地区の役員会 ● 旧小学校の桜木の伐採作業 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地区の作業に参加する人が少なくなった ● 地域の高齢化で共同作業に参加できない人が増えている ● 後継者が少ない 役員（区長・民生委員など）の引き受け手がない ● 後継者不足 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の特徴を生かした催事を行う ● 集落作業の助っ人システム ● 共同作業の後のお楽しみをつくる ● 集落の維持管理 汗を流さない人は知恵とお金を出してほしい
区の楽しみ	<ul style="list-style-type: none"> ● 収穫祭を区全体でやった ● 地域でリハビリを楽しむ会の企画 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域に集会所がない ● 区の行事に欠席が多く、関心がない高齢者が多い ● 地域の人と全く交流がない人がいる ● コロナのため地区の懇親会が減った ● 地域をまとめることが困難 	<ul style="list-style-type: none"> ● 集会所まで来れない人は送迎をする ● 懇親会で親しくなる ● 世代間交流の機会があるとよい ● 高齢者と子供が参加できるお祭りを行う
移動・買い物	<ul style="list-style-type: none"> ● 友達を新潟の病院へ送迎 ● 町外の眼科へ連れて行った ● 足の悪い人の買い物で週に1回連れて行く 	<ul style="list-style-type: none"> ● 福祉バスの本数が少ない（週に2回） ● 電車やバスの便が少なく不便 ● 津川駅の階段が大変 ● 科目によっては町外で受診しなければならないから不便 	<ul style="list-style-type: none"> ● 五泉への通院ができなければ入院するという選択しかない ● 若い人にスマホの操作を教えてもらいネットで買い物ができるように ● 移動スーパーが定期的来たり、食品以外も取り扱う
サロン・集い	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域のサロン 講演会 ● サロンで町内温泉や紅葉狩り ● サロンで阿賀黎明高校の高校生と交流 ● はつらつ健康クラブで交流や筋力トレーニング 	<ul style="list-style-type: none"> ● 男性参加者が少ない ● 自分の地域にサロンがない ● 足腰が悪い人がいて、参加者が限られる ● 他人の噂話を聞いたりすること 	<ul style="list-style-type: none"> ● 先頭に立つ人がいないとできないという地域は輪番で責任者を決めてやる ● 地域にいる特技や趣味のある人に協力をしてもらう ● 男性の趣味の同好会を開催してみる ● 誰でも来れる会食・お茶会
ゴミ出し	<ul style="list-style-type: none"> ● ゴミだしの相談にのった 	<ul style="list-style-type: none"> ● ゴミの分別ができず残されていくので困る ● ゴミの分別を理解してもらえなかった ● 認知症の方がゴミ分別ができなくなる ● 不法投棄 ● 区外の人がゴミを捨てていく 	<ul style="list-style-type: none"> ● 各地域でゴミの分別に関して会を開く

近隣・見守り	<ul style="list-style-type: none"> ● 民生委員として高齢者宅の見守り ● 区長として地域のひとと個々に会話 	<ul style="list-style-type: none"> ● 一緒にご飯を食べる人がいなくてかなしい ● 近所で若い世代との同居をした人が高齢者の気持ちかわからずかわいそう ● 認知症の家族のことで相談を受けるが答えがむずかしい ● 一人暮らしなので家のなかで転倒しても助けが呼べない不安 ● 近隣の人の1人暮らしの緊急時の連絡先が分からない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者や独居世帯が地域にどのくらいいるかを把握する ● 高齢者に声をかけて、顔馴染みを増やす ● 高齢者の楽しみを知る ● 地域全体での声掛けが必要 ● 助けが欲しい人と手伝いたい人のマッチングの仕組み ● 助けてほしい人が声をあげる
ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ● 1人親のお弁当渡しボランティア ● 拭き布（介護用・消毒用）作成ボランティア ● キッズサロンボランティア 	<ul style="list-style-type: none"> ● ささエールを頼みたいけど担い手の方がいない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 様々な世代が関われる場をつくる ● 若い世代からスマホの使い方を教えてもらう機会がほしい ● スマホの操作は何度も継続的に教えてほしい
学校・交流	<ul style="list-style-type: none"> ● 交通安全指導員の方と挨拶をした ● 津川小 昔遊びで交流した ● 津川中の体育祭・文化祭見学 ● 小学校行事に参加 ● 黎明学舎メンバーと地域の催事（レガッタ・マルシェ）に参加 	<ul style="list-style-type: none"> ● 津川小と交流したが、時間が足りなかった ● スクールガードをしていて年々子どもが減ってさみしいがその分覚えやすく、また覚えてもらえてうれしい 	
各種会議	<ul style="list-style-type: none"> ● 民生委員で会議に出席して意見交換 ● 役職で民生委員の会議に参加 ● 地域振興局の会議（洪水対策）の説明会に参加 ● 県主催の健康調査説明会に参加 		<ul style="list-style-type: none"> ● 福祉行政全般について行政職員が地域に出向いて説明をする場を作ってほしい

鹿瀬地区

キーワード	ふだんの関わり	困りごと・課題	あったらいいな
区の作業や会議など	<ul style="list-style-type: none"> ● 区の役員会に参加した ● 河川工事の会議に参加した ● サル被害の対策会議に参加した ● 地区の柿の木、実の処理の会議に参加した ● ゴミステーションの清掃方法の会議に参加した 	<ul style="list-style-type: none"> ● 野菜を作ってもサルやクマに食べられてしまう 	<ul style="list-style-type: none"> ● サル、熊などの対策で、花火購入補助対策が時間がかかり過ぎているので早く実施してほしい

区の楽しみ	<ul style="list-style-type: none"> ● 区の秋祭りで赤飯と飲み物を配布した ● カラオケ大会を開催し参加した ● 全海堂（祭り）の相談会に参加した 	<ul style="list-style-type: none"> ● やってみたいこと（畑、伝統料理）をどこに相談したらいいかわからない ● もっと多くの地区の方と関わりがほしい ● 地域の人と一緒に何かをしたいが、遠慮してしまう ● 仕事以外で地域とつながる機会がない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 気軽さ重視の地域のいっぶく場をつくる ● 地域で一緒に料理して会食し食の大切さを学ぶ ● 子どもと地域の方が交流する機会を多くする ● 週1、月1で地域の方と会食をする
移動・買い物	<ul style="list-style-type: none"> ● 買い物に連れて行く ● カラオに買い物へ行き、夕飯について話した ● 福祉バスを利用し、地域の人と話をした ● 商店でお客さんと話した 	<ul style="list-style-type: none"> ● 車が運転出来て動けるうちはよいが、出来なくなったときが不安 ● 免許証返納後の移動手段がない ● 福祉バス利用時に補助する人がいない ● 移動販売がなく不便 	<ul style="list-style-type: none"> ● 買い物を代行する人がいるといい ● 地元業者の移動販売があるといい ● ワンコインタクシーで乗れるといい（500円、100円） ● タクシーチケットの配布 ● 福祉バスの介助員がいると利用しやすい ● 福祉バスが止まる場所を増やす
地域活動など	<ul style="list-style-type: none"> ● クリスマストレインの計画を立てるための相談（ライン）をした ● キャンドルナイトを新大生徒とおこなった。 ● ウルト라마ラソンでエイドをやって多数の人と会った 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の方は、積極的な方、控えめな方がいるので、みんなを引き込み、同じ思いで取り組む方法 ● ・大学生とは関われたが、地域の人の参加が少ない 	
サロン・集い	<ul style="list-style-type: none"> ● サロンメンバーで紅葉狩りをした ● 運動クラブで参加者の除雪の不安を聞いた ● おやG'Sに参加した 		<ul style="list-style-type: none"> ● 集う場の再結成のきっかけを考える
近隣・見守り	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護者からの相談を聞いた ● 散歩や畑で話をした ● 近所の高齢者に声かけを続けている ● 近所の方の様子を見に行行った ● ゴミ出しで近所の人と話をした ● 会議の資料を配布した時に話をした ● 温泉に行き知人と話をした 	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護者の日頃の悩みやストレスの相談を受けつける人や解決する専門家がない ● 地域の中でテレビ電話をうまく活用出来ていない ● スマホの使い方がわからない ● 空き家が多い、増えている 	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護者に対してのカウンセラーがいるといい ● なんでも話し合える関係性を築く
学校・交流	<ul style="list-style-type: none"> ● 学童クラブの子供と地域の方との花植えに参加した ● 高校の授業で地域の方のお話を聞いた ● 高校生とサロンに参加した ● 未来フォーラムで地域の方と一緒に参加した 	<ul style="list-style-type: none"> ● 久しぶりに子どもたちと会い楽しく交流出来きた 	<ul style="list-style-type: none"> ● 旧保育所、旧小学校を活用し、交流の場所づくりをする

上川地区

キーワード	ふだんの関わり	困りごと・課題	あったらいいな
区の作業	<ul style="list-style-type: none"> ● 収穫感謝祭で区の人たちと交流 ● 農区の人と共同で草刈りと砂利敷作業をした ● 神社の冬囲い ● 電気柵の撤去作業 ● 神社やお寺、集会所の冬囲いや清掃、水路管理作業 ● さいの神の準備 	<ul style="list-style-type: none"> ● 役員が若い人になったので平日の作業ができない ● 共同作業で若い人が少ない ● 区の作業が高齢化している ● 町外に住む家族が参加してくれるが、作業が終わるとすぐ帰ってしまうので交流がない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 草刈りの負担を軽減するために除草剤に変える ● ダメなものはあきらめるなど、何を残すかを考える
区の楽しみ	<ul style="list-style-type: none"> ● 区の忘年会 ● 区の伝統行事を実施した（二十日様） ● 地区行事に参加した ● えびす講 ● 上川そば祭りですば打ちをした ● 直売所の感謝祭に参加した 	<ul style="list-style-type: none"> ● 行事や祭りができなくなったり規模が小さくなっている ● 地区の行事に参加する人が減った ● 女性の集まりがなくなった ● 伝統行事や伝統食をくわしく教えてもらっていた人がなくなった ● 若い人（嫁さん）とも交流したいが機会がない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもから年寄まで楽しめる行事 ● 若い人だけでない出会いの場（老後を楽しむ） ● 次世代の人を育てる 興味を持たせる ● 世代を超えて楽しめる行事の復活 ● みんなで料理をたべる ● 年間を通じた行事・風習を年配の方に聞いて記録しておく
移動・買い物		<ul style="list-style-type: none"> ● バス停が遠い ● 市街地まで遠く公共交通機関がない ● 家族に送迎してもらえないと外出できない ● 雪が降ると買い物が大変 	<ul style="list-style-type: none"> ● 移動スーパー ● 欲しい人に食材が届くシステム ● 余った野菜をみんなでシェアする ● ワンコイン相乗りタクシー ● 行政で手配できる車両があればいい
趣味活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 太鼓 ● そば打ち体験 ● 文化祭にお花を出品した。華道サークルに月1回行っている。 ● 畑で野菜を作ってる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 熊が出没して困っている ● サル、イノシシの被害がある ● 身体に無理をして畑仕事している人がいる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 柿の木の伐採に取り組む ● もっとサル、クマ対策をとる
サロン・集い	<ul style="list-style-type: none"> ● サロンで交流 ● 地域サロンに参加し、社協の方と世間話をした ● 老人クラブでゲートボールや小旅行を楽しんだ ● 老人クラブの役員会に出席した 	<ul style="list-style-type: none"> ● 70代でも働いている人が増えたのでサロンに参加する人が少ない ● 一人暮らしで人との交流が少ない ● 世帯数が少なく交流する相手がいない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 屋根付きのゲートボール場（運動場）があれば交流の活性化につながる ● 地区にサロンがあったらいい（地区の人々と仲良くしたい）
近隣・交流	<ul style="list-style-type: none"> ● 散歩をして子どもたちと挨拶をした ● 回覧板をまわす時に困りごとがないか聞いた ● 畑をしている時近所の方が来て話をした ● 近所の方とお茶飲みし世間話をした ● 野菜をもらったり、作っていない人に配ったりしている ● 懇親会 	<ul style="list-style-type: none"> ● たくさんいただいた時のお返しの方に悩む ● 畑の電柵など手伝ってもらうこと 	<ul style="list-style-type: none"> ● 会合の送り迎え ● 配布物は回覧でなく全戸に配布したらどうか ● 年齢問わず気軽に集まって交流する ● 夜の福祉バス

見守り	<ul style="list-style-type: none"> ● 戸別訪問をした ● ふだんの生活の中で挨拶をかわしたり元気を確認する ● 民生委員として地区を見守りしておしゃべりを楽しんだ ● 消防団で戸別訪問 ● 集落の様子を時々見てまわっている 	<ul style="list-style-type: none"> ● 空き家が増えた ● 消防団員の減少 ● 災害時などの対応がすぐできるか不安を感じる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 一人暮らしの人の安否確認 ● 見まわり隊をつくる
学校・交流	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもみらいフォーラムに参加 ● 高校、小学校の授業に参加した ● 中学校の会議に参加した ● 花いっぱい運動で地域の老人クラブの方と花植えをした ● 地域の方と高校生と一緒に料理をした 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域で子どもがいない ● 子どもが少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 保育園、学校を活用し集まる
ゴミ出し	<ul style="list-style-type: none"> ● ゴミ出しで近所の人と会った 	<ul style="list-style-type: none"> ● ゴミステーションに持って行かれないゴミがあった ● ゴミ箱が汚れていた 	<ul style="list-style-type: none"> ● 広報で明日のゴミのお知らせをする（毎日） ● ゴミステーションの清掃をきちんと行う ● ゴミ出しの工夫 ● ゴミの日を教えて歩いてくれる人 ● 広い心（誰でも間違えることがある）
除雪・雪下ろし		<ul style="list-style-type: none"> ● 雪下ろしの体力が続くか心配 ● 空き家の雪が心配 	<ul style="list-style-type: none"> ● 除雪ボラのしくみづくり（小地域内で話し合いから始める） ● ふだんからの互助

三川地区

キーワード	ふだんの関わり	困りごと・課題	あったらいいな
区の作業	<ul style="list-style-type: none"> ● 用水路周辺の草刈り ● 冬囲いなどの共同作業 ● 公民館の清掃 	<ul style="list-style-type: none"> ● 作業する人の年齢が高くなっている ● 高所作業があり後継者がいない ● 常に区長に対応を任せればよいという考え方があつたよう負担が大きい ● 体調が悪くても作業に参加する人がいる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 人材派遣のようなシステムがあればよい ● 観光地でもあるので、見栄えの良いプロの雪つりが見たい ● 一人ひとりが協力しようという心 ● 協力者やサポート役の人が必要 ● 区長さんや民生委員さんの何でも相談先
区の行事	<ul style="list-style-type: none"> ● 地区の芋煮会に参加した ● 秋まつり ● 鯉まつり ● 男子会：芋煮会の準備の集まり ● 地区役員会 ● 砂防ダム完成祝賀会 	<ul style="list-style-type: none"> ● 芋煮会の参加者に若者や若い女性が少ない ● 若い人が出て行ってしまう 	

移動・買い物	<ul style="list-style-type: none"> ● 買い物の送迎 ● 家族と買い物に行ってきた ● 仲間の友達に頼んで買い物に行った ● 生協、移動販売 	<ul style="list-style-type: none"> ● タクシーが少なくなった ● 移動販売なくなった ● 移動販売車が来るが高いいので町外まで行く ● 移動販売で欲しいものがない時に困る ● 地元商店の閉店 	<ul style="list-style-type: none"> ● 買い物バス（乗合い） ● 移動スーパーの充実 ● 買い物できない人（高齢者）にネット通販で近所の人が代わりに注文する ● 移動販売の値段がもう少し安くしてもらいたい
サロン・集い	<ul style="list-style-type: none"> ● コロナで休んでいたサロンで集まった ● サロンの集まりで今後のことを話し合った ● ゲートボール 	<ul style="list-style-type: none"> ● サロンが義務化して楽しめなくなった ● サロンの集まり少ない ● 三川地区、阿賀町全体でも老人クラブが減っている 	<ul style="list-style-type: none"> ● 同世代の集まり ● サロンがあるといいと思う。集まって話すことでつながっていくと思う ● 話しやすい集い、目的がある集い ● サロンがちょっとした問題の解決の場になっている ● ゲートボールの普及
近隣・見守り	<ul style="list-style-type: none"> ● 友達のところにお茶飲みに行った ● 仲間と食事やドライブへ行った ● 野菜をもらったりなど毎日のように接しています ● 近所のあばあちゃんに野菜をいただいた ● 畑作業をしながら話をする 	<ul style="list-style-type: none"> ● 食べきれないくらいの量をもらった ● 高齢の二人暮らしになり不安が増えた ● ひとりの夜が寂しい 	<ul style="list-style-type: none"> ● 近所のお茶飲みでもいい ● ふだんから付き合いをする ● ご近所見守りがあるとよい ● 高齢者から率先して若い人に声をかける
民生委員や福祉施設	<ul style="list-style-type: none"> ● 民生委員として訪問した ● 緊急通報あり訪問した ● 電気が点かず、車も動いた様子がないので訪問した ● デイサービス利用者の家族に会ってお話した 	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者のみの世帯で体調変化時の緊急連絡先などを知らない ● 民生委員が連絡先になる 	
その他		<ul style="list-style-type: none"> ● 空き家バンクの登録手続きが面倒 ● ・消雪パイプあるが水の出が悪くて困ったと言っていた 	<ul style="list-style-type: none"> ● 緊急時AEDを使うやり方を教えてほしい ● 外灯を増やす ● 夜の見回りをしてほしいや警察がパトロール ● 地域の危険な場所の安全対策

5. 用語集

用 語	説 明
8050問題	引きこもりの若者がそのまま中年になっても親の支えで生活が続いているうちに親も高齢となり、収入や介護などで親子ともに生活が困難になること。
ダブルケア	子育てと介護を同時に担うことで、負担が大きくなっている状況のこと。晩婚化、出産年齢の高齢化、少子高齢化、核家族化の問題が集中して顕在化していると言われています。
地域共生社会	制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域を共に創っていく社会を指しています。
阿賀町総合計画	総合計画は、地方公共団体が将来に向けてどのようなまちづくりを進めていくのかをまとめた行政運営の総合的な指針で、各分野のあらゆる事業や個別の計画の基本となる最上位の計画です。阿賀町では、「豊かな自然・かがやく文化・みんなで築く安心のまち」を基本理念とした計画を策定しています。
阿賀町高齢者保健福祉計画	高齢者保健福祉計画は、高齢者が住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らし続けられるよう、老人福祉法に基づき、高齢者に関する施策について基本的な考え方や目標を定めたもの。すべての高齢者を対象とした保健福祉施策を総合的に推進するための基本指針として、町が目指すべき基本的な考え方や政策目標を定め、その実現に向けて取組むべき課題や施策を明らかにするために策定するものです。町では「高齢者保健福祉計画」と「介護保険事業計画」を一体的に策定しています。
阿賀町コミュニティ振興指針	総合計画により人口減少問題を最重要課題に掲げた取り組みを行っているなかで、行政が今後も住民に寄り添い、地域住民は自助と共助による主体的な取り組みにより、いつまでも安心して潤いある豊かな地域の実現に向け、今後の方向性を明確に示すものとして策定された指針のこと。
N P O	特定非営利活動促進法により法人格が認証された団体のこと。ボランティア活動をはじめとする市民の自由な社会貢献活動としての特定非営利活動の健全な発展を促進することを目的としていて、特定非営利法人と訳されています。
P T A	P=Parents（保護者）、T=Teacher（先生）、A=Association（組織）の略。子どもたちのすこやかな成長のために、親と先生だけでなく、家庭と学校、地域社会がお互いに協力し合ってさまざまな活動を行う集まりのこと。
社会福祉協議会	民間の社会福祉活動を推進することを目的とした営利を目的としない民間組織です。昭和26年（1951年）に制定された社会福祉事業法（現在の「社会福祉法」）に基づき、市区町村と都道府県に設置されています。
生活支援体制整備事業	介護保険法に基づき、高齢者を主に、つながりの中で助け合いながら、住み慣れた地域で自分らしく生活できるまちづくりを目指して、住民と一緒に地域の困りごとや、生活課題などについて考え、地域づくりをサポートしていく事業です。

用 語	説 明
生活支援コーディネーター	「地域支え合い推進員」とも呼ばれ、協議体（支え合い会議）と協力しながら、地域の様々な活動をつなげ、組み合わせる調整役です。高齢になっても住み慣れた地域で、自分らしく暮らしていけるよう、生活支援・介護予防の体制づくりを進めていくのが仕事です。地域の特性や生活課題（困りごと）を把握し、支え合いの仕組みづくりや支え合い活動に参加する人を増やしていく取り組み、困りごとと取り組みのマッチング等を行います。
患者輸送車等運行事業（町単独事業）	幹線から外れた路線バス、コミュニティバスの運行が行われていないエリアにおける、通院や通学、買い物など地域住民の安心・安全な暮らしに欠かすことのできない移動手段を確保するため、町はそれらの地区に対して運行を委託しています。
デマンドバス	デマンドバスは、乗り降りする場所と時間帯を予約することにより、自宅前から目的地まで直接移動できる予約制バスです。目安となる運行経路、運行時間は設定されていますが、運行エリア内であれば乗降場所は自由です。
民生委員児童委員	民生委員とは、社会奉仕の精神をもって、常に住民の立場に立って相談に応じ、必要な援助を行い、関係行政機関の業務に協力するなどして、社会福祉の増進に努める方々で、住民の身近な相談相手です。
S N S	ソーシャル・ネットワーキング・サービス（Social Networking Service）のことで、登録した人同士でつながり合い、交流できるウェブサイトの会員制サービスのこと。
しらせあい	阿賀町アプリ「しらせあい」のこと。スマートフォンを利用し、町からの発信する情報が受け取れるほか、マイナンバーカードを連携することで各種行政手続きが行えます。
日常生活自立支援事業	認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者等のうち判断能力が不十分な方が地域において自立した生活が送れるよう、利用者との契約に基づき、福祉サービスの利用援助等を行います。
成年後見制度	不動産や預貯金などの管理、遺産分割協議などの相続手続や、介護・福祉サービスの利用契約や施設入所・入院の契約締結、履行状況の確認など、ひとりで決めることに不安のある方々を法的に保護し、ご本人の意思を尊重した支援（意思決定支援）を行い、共に考え、地域全体で支えていく制度のこと。
法人後見	社会福祉法人やNPO法人などの法人が成年後見人等になり、判断能力が不十分な人の保護・支援を行うこと。法人後見では、法人の職員が成年後見制度に基づく後見事務を担当して行います。担当している職員が何らかの理由でその事務を行えなくなっても、担当者を変更することにより、後見事務を継続して行うことができます。
ふれあいいきいきサロン	地域で暮らす方々が、住み慣れた地域で生きがいをもち、健康で楽しい生活を送っていただくことを目的として、地域住民とボランティアと一緒に仲間づくりや交流の場づくりをすすめる、高齢者の孤独感の解消や閉じこもり防止など介護予防の推進を図る活動です。
地域包括支援センター	地域の高齢者の総合相談、権利擁護や地域の支援体制づくり、介護予防に必要な援助などを行い、高齢者の保健・医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援することを目的とし、地域包括ケア実現に向けた中核的な機関として市町村が設置しています。
成年後見センター	認知症や知的障がい、精神障がいや発達障がいなどのため、成年後見制度の利用を必要としている方が適切に制度を利用できるよう、啓発・相談や、親族・市民後見人の活動支援等を行う中核機関として、阿賀町地域包括支援センター内に設置されています。

用 語	説 明
子ども家庭総合支援拠点	子ども家庭支援員を配置し、専門性を活かした相談対応や訪問を通じて、すべての子どもとその家庭、妊産婦等に対して切れ目のない支援を行います。
子育て世代包括支援センター	妊娠・出産・子育てに関する各種相談に対応し、妊娠期から子育て期にわたるまで切れ目のない支援を行います。
赤い羽根共同募金	昭和22年に、市民が主体の民間運動として始まりました。当初、戦後復興の一助として、被災した福祉施設を中心に支援が行われ、その後、社会福祉法に基づき、地域福祉の推進のために活用されてきました。社会の変化のなか、共同募金は、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、さまざまな地域福祉の課題解決に取り組む民間団体を応援する、「じぶんの町を良くするしくみ。」として、取り組まれています。
身体障害者福祉協会	身体障害者福祉法（昭和24年12月制定）が制定されたのを機に、障がい当事者の手で結成され、障がいがあっても、暮らしやすくなるようお互い助け合うことにより、それぞれの障がいの克服をめざし社会的に自立することを目的として設立された団体です。
手をつなぐ育成会	障がいがあっても住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らしていけるよう、会員や地域と連携して、知的障がい児者の社会参加と福祉向上のために活動する団体です。
認知症カフェ	認知症の人やその家族、友人、地域住民、そして専門職が年齢や所属、地域に関係なく身近で入りやすい場所で開催され、おしゃべりを楽しみながら地域とのつながりづくりや認知症についての情報交換ができる場です。
災害ボランティアセンター	災害時に設置される被災地でのボランティア活動を円滑に進めるための拠点です。近年では、被害の大きな災害に見舞われたほとんどの被災地に立ち上げられ運営されています。一般的に、被災した地域の社会福祉協議会や日頃からボランティア活動に関わっている人たち、行政が協働して担うことが多く、被災地外からの災害ボランティアセンター運営経験者が関わる場合もあります。
自主防災組織	地域住民が協力して「自分たちの地域を自分たちで守る」ために立ち上げる組織のこと。平常時には災害に備えた取組みを実践し、災害時には被害を最小限に食い止めるための応急活動を行います。また、復旧・復興時には、地域の再生のために様々な取組みを行います。
地域防災計画	さまざまな災害から住民の生命、身体及び財産を守るため、町と防災関係機関、住民が連携して、被害の軽減対策や災害発生時の対応、早期の復旧・復興方法などについて、あらかじめ定めておく計画です。
阿賀学	子ども達の「ふるさとを愛し、夢をもち、意欲的に学び、自らの未来を切り拓く子」の育成をめざし、「自然学」「特産学」「観光学」「環境学」「歴史学」「未来学」の6分野からなる郷土学習。阿賀町の「ひと・もの・こと」に学び、キャッチフレーズは「阿賀町のひと・もの・こと、すべてが先生」。
コミュニティ助成事業	地域課題の解決に向けた、住民が行う地域活動を応援し、主体的な取組みを実施する団体（グループ）に対して町が単独で助成を行う制度で、「地域づくり支援事業」と「地域活力向上支援事業」があります。
子ども食堂	子どもやその保護者、地域住民に対し、無料または安価で栄養のある食事や温かな団らんを提供する場。

用 語	説 明
わんぱくキッズサロン	就学前の子ども達とその保護者を対象に、遊びやイベントを通じて交流を図り、子育てを楽しみながら仲間づくりの場として毎月1回開催しています。
みんなでささエール事業	地域住民がちょっとした困りごとを支援するためにボランティアさんが少しの実費をいただいてサポートする事業です。
放課後児童クラブ	放課後、保護者のいない家庭の小学校1年生から6年生の児童を対象に、青少年の健全育成を目的として授業の終了後等に小学校の余裕教室等を利用して適切な遊びや生活の場を用意して実施しています。
コミュニティスクール	学校運営協議会制度のことで、学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図るための有効な仕組みです。コミュニティスクールでは、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくことができます。
老人クラブ	おおむね60歳以上を対象とした仲間づくりを通して、「生活を豊かにする楽しい活動」「地域社会を豊かにする社会活動」に取り組み、生きがいを高めながら自主的に企画実行する、地域に根ざした団体です。
ユニバーサルデザイン	年齢や性別、文化、身体状況など、人々が持つさまざまな個性や違いにかかわらず、最初から誰もが利用しやすく、暮らしやすい社会となるよう、まちや建物、物、サービスなどを提供していこうとする考え方のこと。
シルバー人材センター	「高齢者等の雇用の安定等に関する法律」に基づき、地域の高齢者が共働・共助し合うことによって、高齢者の就業を通じて福祉の増進を図りながら自主的に運営する団体で公益的な非営利団体です。
障がい者就労支援事業	障がいや疾患などの理由で働くことが困難な人を対象とした、就職や働き続けるためのサポートする制度のことです。 た就労移行支援と就労継続支援A型・B型など4種類のサービスがあります。
相談支援事業所	障がい者や家族から相談を受け、助言や情報提供、支援にかかる計画の作成、関係機関との連絡調整、モニタリングとフォローなどを行う事業所のこと。
生活困窮者自立相談支援機関	生活困窮者自立支援法に基づく生活困窮者の支援制度がはじまったことから設置された機関で各市町村に設置されていますが、町村部は新潟県パーソナル・サポート・センターが受託しています。 仕事や暮らしに関して様々な問題を抱えていて、日常生活や経済上の自立が困難な方に包括的かつ個別的に相談支援を行います。相談支援員が、生活や仕事など幅広い相談を受け付け、地域の各団体・NPOや行政機関と連携し、相談者の自立を支援します。

6. 策定委員会名簿

				敬称略
	領域	氏名	所属等	備考
1		青 木 茂	新潟医療福祉大学	委員長
2	高齢	廣 瀬 茂 雄	阿賀町老人クラブ連合会	
3	自治会	伊 藤 郡 一	上川地区区長会	
4	障害	小野里 浩 二	阿賀町手をつなぐ育成会	
5	学校	神 田 清 隆	社会教育委員	
6		清 田 周	阿賀津川中学校運営協議会	
7	団体	大 堀 き ぬ	阿賀町食生活改善推進協議会	
8		板 屋 越 実	阿賀町民生委員児童委員協議会	副委員長
9		中 野 敬 一	主任児童委員	
10	民間 その他	野 潟 勉	阿賀町商工会	
11		杉 崎 三代子	久太郎	
12		加 藤 一 英	N P O 法人七福の恵	
13		加 藤 恵 美	黎明学舎（小中高連携コーディネーター）	
14		山 田 隆 之	フードバンクあが	
15	事業所	土 屋 桜	（福）東蒲原郡福祉会 どんぐり施設長	
16	行政	八 代 真 樹	阿賀町福祉介護課	
17		加 藤 和 重	阿賀町まちづくり観光課	

※所属等は令和7年3月現在のものです

阿賀町社会福祉協議会では、このたび初めて「地域福祉活動計画」を策定いたしました。本計画は、基本理念である「みんながしあわせに暮らしつづける町 あがまち」の実現に向け、町民の皆さまとともに考え、つくりあげたものです。

計画策定にあたり、4地区で地域座談会を開催し、住民の皆さまの率直な声をお聞きしました。また、阿賀町の高校生を対象にアンケート調査を実施し、若い世代が地域に対して持つ思いや課題意識を把握しました。さらに、策定委員会のワーキングチーム（作業部会）には町内の中高生の生徒にも参加いただき、直接意見を交わすことで、より多くの世代の声を計画に反映することができました。加えて、町内の各種団体へのヒアリング調査も実施し、福祉や地域づくりに関わる皆さまから、日々の活動を通じた貴重なご意見をいただきました。これらの取り組みにより、多様な立場の方々の声を取り入れた計画となったことを嬉しく思います。

この計画は、策定して終わりではなく、これからの阿賀町の福祉を支えるための第一歩です。住民の皆さまとともに、支え合い、助け合う地域づくりを進めてまいりたいと思います。引き続き、皆さまのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年3月吉日

阿賀町地域福祉活動計画策定委員会

委員長 青木 茂
(新潟医療福祉大学)



発行

(福) 阿賀町社会福祉協議会

〒959-4401 新潟県東蒲原郡阿賀町津川 664

(阿賀町総合福祉保健センターやまぶきの里)

電話 0254-92-3088